

# アメリカの MAGA や福音派は地球温暖化はフェイク？

近年アメリカでもカテゴリー4 ハリケーン、F4 竜巻、山火事多発など次々と災害が起きている  
MAGA や福音派の人達もトランプと同じようにフェイクだと思っているのか

ChatGPT:

とても重要なご質問ですね。

結論から言うと、アメリカの MAGA (Make America Great Again) 支持層や福音派の人々の一部は、依然として気候変動やそれに伴う災害を「フェイク」または誇張されたものと捉えている傾向があります。ただし、全員がそうではなく、少しずつ分裂も見られます。

## 1. MAGA 層と気候災害

MAGA 支持者の中には、以下のような信念を持つ人が多いです：

- 気候変動は自然の周期の一部であり、人間の活動の影響はごくわずか。
- 民主党や国際機関(国連など)が経済統制のために「気候危機」を利用している。
- ハリケーンや山火事は昔からあり、報道が過剰なだけ。

たとえば、トランプ元大統領自身が「気候変動は中国のでっち上げ」などと過去に発言しており、その影響力は今も強く残っています。

## 2. 福音派の一部の見方

保守的な福音派(Evangelicals)の中には：

- 「終末思想」に基づき、災害は神の警告や預言の成就だと考える人々。
- 「神が地球を支配しており、人間の行動で気候が変わるとは思わない」とする層。

一方で、若い世代や進歩的な福音派の中では、環境保全を「神の創造物を守る行為」として真剣に取り組む人も増えてきています。

## 3. 災害の現実と意識のズレ

近年のアメリカの気象災害(例:カリフォルニアの山火事、ミズーリやオクラホマの F4 竜巻、ルイジアナのカテゴリー4 ハリケーン)により、地域住民の中でも「これはただ事ではない」と気づき始めている人々もいるのは事実です。

ただし、気候政策やカーボン税のような\*\*「政府介入」には強い反発がある\*\*ため、「問題は認識していても、それにどう対処するか」には大きな隔たりがあります。

## まとめ

- MAGA や保守派福音派の中核層はいまだにトランプ的な「フェイク気候論」を信じている人が多い。
- しかし、災害の現実直面して目を覚まし始めている人々も確実に存在する。
- アメリカ社会内でも、気候問題に関する分断は深刻で、科学 vs 信念 の対立構造が続いています。